

子どものミカタ・発達のミカタ

「げんき」では、相談・療育に加え、地域支援や保護者支援などを通じて、周囲の人々が子どもの味方となるよう子どもの見方・発達の見方をご紹介します。

安心できる人がそばにいる

Aちゃんは年中さんの女の子です。昨年の運動会では、練習やたくさんの方が集まる本番に参加することができませんでした。

今年も運動会の時期が近づき、Aちゃんもパパやママもドキドキしていました。



運動会の練習が始まりました。Aちゃんははじめ、みんなの練習を見ていましたが、Bちゃんが手をつないで一緒に走ることに誘うと、だんだんと練習に参加することが増えていきました。そして、練習を重ねるにつれ、Bちゃんの隣を手をつなぐように走れるようになっていきました。



そんなとき、Aちゃんには、Bちゃんというお友だちができました。

先生は、外遊びからお部屋に戻ってくる時に、「いっしょに戻ってきてね」と声をかけたり、普段の活動から2人をペアにしたりするなど、お互いの関わりを増やしていきました。



迎えた運動会当日、Aちゃんは緊張した面持ちでしたが、Bちゃんの隣を最後まで走りきることができました。

AちゃんもBちゃんも、パパもママも先生も、みんなの笑顔がはじけた瞬間でした。



新奇場面（行事やその練習などのいつもと違う活動や場面）では変化が苦手なお子さんにとって不安が高まりやすくなります。そのようなときはスケジュールや活動内容などを“見通しが持てるようにわかりやすく伝える”ことが安心して活動に取り組める要因になることがあります。例えば、言葉で説明を聞くよりも視覚的な理解が得意なお子さんには“絵や図を使って説明し見通しを立てやすくする”ことが支援につながります。

例のように“安心できる人がそばにいる”ことも不安を低減するための大切な環境の1つと考えられます。その人は保護者や先生など、お子さんの周囲にいる大人や、お友だちである場合があります。今回は安心できるお友だちがいる環境の中で頑張ることができたAちゃんのエピソードをご紹介します。

解説

楽しめる活動を増やす

Cくんは、小さい頃から図鑑や理科の本が好きで科学分野に関心がありました。

そんなCくんでしたが、小学校に通い始めると集団行動が苦手なために先生やお父さん、お母さんに叱られてしまうことがたびたびありました。そして、そんな日が続くうちに、だんだん元気がない様子が増えていきました。



小学校4年生になり、習い事として科学教室に通うことになりました。

試験管などの様々な器具を使った実験や科学について話す時間など、大好きな活動が広がっていきました。また、科学の話为满足いくまで話せるお友だちや先生にも出会えました。



学校でうまくいかず、しょんぼりする日もありますが、科学教室のある日は、楽しく活動に参加し、翌日には気持ちを切り替えて学校に通うことができています。



学校や家庭でうまくいなくても、余暇活動など気持ちを切り替えて楽しく過ごせる場所や時間を持つことは大切です。また、日常では得られない経験をすることで本人の得意な分野を伸ばしたり、意外な才能が発見できるかもしれません。

テレビゲーム（携帯ゲーム）が好きなお子さんも多いですが、一人で没頭するゲームよりも、本人の負担にならない範囲で他者とコミュニケーションを持つ活動の方が発達的にも良いと考えられます。Cくんにとっては関心のある科学教室の活動が生活全体の安定や人間関係の広がりにつながりました。

解説